

『韓国出版学の史的研究 韓国出版学会 30 年史』
(韓国出版学会 30 年史編集委員会編, 社団法人韓国出版学会, 2000)

第 3 部 出版学研究の成果と将来設計
韓国出版学会の研究成果とその位相を中心に

韓国出版学教育の模索と進展に関する研究 研究史と教育史を中心に

南ソク純 (Nam Seok Soon)

研究の目的

現在までの韓国の出版教育研究の展開様相を体系化し, 出版教育の流れを整理すること.
これらを体系化し, 整理することによって現在まで行われてきた出版教育の研究手法と出版教育の方向を改めて提示する一契機にしたい.

出版教育はその重要性にも関わらずこの分野に関する研究が少なく, 各大学での教育課程も様々である. それは出版教育に関する接近方法に問題があるからである.

研究の研究範囲は出版教育

出版教育に関する研究論文などを考察し, 出版教育の現況を把握すること.

時代的には 1950 年後半から現在まで韓国で行われてきた出版教育研究に関する全般的な結論の範囲で論議する. そして出版学会の次元あるいは学会会員の研究結果だけを対象とする.

実際にも出版教育の研究は韓国出版学会で最初に提起され, 研究されたものが殆どである.
研究対象は著書, 論文, 評論のなかで論議の対象となりうるものだけを扱っている.

1. 1960 年代前後の出版教育研究

韓国の現代的出版教育研究の始まりは 1958 年, 安春根氏が「ソウル新聞学院」で「出版論」の講義をしたことにその起源をみることができる. 出版論は出版の本質と出版行為を習得するための教育であり, 講義は教育的論理体系を整えてこそできるものである. そして出版講義の論理的体系は出版教育の研究の枠内で行われるとみることができる. 最初の出版理論書である安春根氏の『出版概論』も講義のなかでその枠が形成されたとすれば, 出版教育の研究は 50 年代後半から始まったといえる.

1960年代の主要研究は全部で6本。この時期は安春根，関丙徳，朴一俊らによって初めて出版教育の必要性が提起された時期である。安春根氏はアメリカとイギリスの出版教育に言及しつつ専攻科目に関する概括的な分類を試みた。そして関丙徳氏は出版学の学問的体系化のために大学に出版学科を新設することを主張したが，この主張は出版教育の必要性を本格的に提起したものであり，時期的にも重要な意味を持つ。朴一俊氏は「出版業と職業訓練」に関する書物を翻訳，掲載することによって出版現場での教育の必要性を主張している。ここで注目に値するものは，この時期に出版を学問の対象として位置付け始めたという事実である。安春根氏は出版論最初の著作物である『出版概論』を刊行し，出版現象を理論的に体系化した。関丙徳氏は論文「出版学序説」を通じて出版学の学問体系を選択，制作，分配の3つに分けて提示したが，これは出版現象と過程を集約したものであり，出版経営や出版史とは分けて考えている。彼ら3人の著書と論文こそが韓国出版学と教育研究の基底となっている。出版教育は出版学を基にして形成されるものであるが，韓国の出版教育において1960年代が占める意味はここにあると思われる。

2. 1970年代の出版教育研究

1970年代の出版教育に関する論理的主張や論文，著書は5本に過ぎないが，概ね2つの方向から提起されたと言える。まず1つの方向は，大学での出版学科の設置を重ねて提起しつつ出版学科の設立に必要な教科課程を提示したことである。そしてもう1つの方向は，出版現場での編集者の養成，ハングル専用問題，出版実務便覧の出版である。

1970年代は経済開発が本格的に進み，出版の量的な膨張が成立した時期であり，情報としての出版産業に関する論議が韓国内で始まった時期である。このような時代的環境下で科学的な出版教育の必要性は切実であったものの，出版業界ではまだ出版を「学問」というより「事業」とであると，そして「創造」というより「技能」とであるという視覚を堅持していた。この時期に出版が情報産業であるという認識から大学に出版学科設立の重要性を提起し，教育課程の編成試案まで提示した具体的・積極的姿勢，そして出版を学問の対象として本格的に論議したことは充分評価できると思われる。このように1960年代～1970年代の出版教育の研究が作り上げた成果をもとに1980年代初には大学院と専門大学に出版学科が設立されることになった。

3. 1980年代の出版教育研究

この時期に学会会員によって発表された出版教育に関する主要著書，論文，評論は18本であり，1960年代～1970年代に比べれば大幅に増えている。これは80年代に入ってから大学と大学院に出版学科が設置されることによって出版教育の重要性に関する認識がより高まったからである。その内訳をみると，著書が全部で2点，論文が6本，評論及びその他が10本である。論文の掲載や発表は出版学会誌に掲載されたのが4本，月例発表会での発表が6本，修士論文が1本である。評論は月刊『出版文化』に全部で6本が載せられており，その他に『印刷文化』，『文化芸術』などで発表された。

著書の中で安春根氏の『韓国出版文化論』は、第1部は論叢、第2部は短い論文で構成されているが、この内容は安春根氏が発表された韓国出版文化に対する論説で構成されている。著者が序文で明らかにしている通り、この本は韓国の出版文化に対する状況診断と現実批判を通じてその改善の刺激剤にしようという試みとして出版された。特に、第1部には「出版学原論」、
「大学出版教育論」が掲載されており、第2部には「出版の理論と実際」などが収録されており、出版教育と関連性が高い著書である。関丙徳氏の『出版学概論』の第2部には出版学の研究と教育と関連して「大学出版学科カリキュラム」が掲載されている。

論文と評論で扱っているテーマは概ね3つに分けられる。1つは正規教育における教育課程とカリキュラムに関する研究、2つ目は、出版専門人材の開発と専門性に関する研究、3つ目は、出版教育の必要性和問題点に関する指摘である。

1980年代の出版教育研究の観点は、大学での出版教育に関する論議が中心となっており、それと同時に出版現場での出版人の専門性の問題がもうひとつの軸となっている。以上の動きによって1980年代は出版学教育に関する必要条件と土壌が準備された重要な時期となったとみることができる。また1987年の出版自由化措置によって出版社や雑誌社が急増するにつれ出版人材の養成問題が時代的イシューとして提起されたこともひとつの原因であるといえる。

4. 1990年代の出版教育研究

1990年代に行われた出版教育の研究は大きく2つの方向に分けることができる。1つは、伝統的な出版メカニズムに基づいた研究で、もう1つはコンピューター・テクノロジーの導入による出版教育の研究である。量的には1980年代の研究に比べて減少しているが、内容としては研究領域は拡大している。そして正規教育機関以外に非正規教育機関である社会教育機関へと研究範囲が広まったこともこの時期のひとつの特徴である。そして伝統的教育方法から電子出版教育への拡大、大学出版教育と小・中・高等学校の教育課程との関連性論議、出版業務過程分析と産学協同の模索などがこの時代の特色である。

5. 専門大学¹⁾の出版教育

専門大学の出版教育には多くの変化があった。93年までの専門大学は総合出版学科、出版と印刷との結合学科、編集デザイン学科で構成されており、教科課程は主に伝統的な出版と編集実習の次元から行われた。しかしそれ以後現在までの出版専門大学をみても、専門大学の出版教育は出版学に基づいてアプローチする学科、電算学(コンピューター)に基づいてアプローチする学科、デザインを基にしている学科などの3つに分けることができる。しかしこれからはマルチメディアに重きを置く教育課程へと変化が起きると予想されている。

1) 韓国における「専門大学」とは日本の短期大学に該当する教育期間であり、期間としては2年が普通であるが、最近になって3年制の専門大学も増えている。(訳者注)

専門大学の出版関連学科現況および変化推移

地域	大学	学科 (専攻) 設置年 度	系列(学部)名 称	学科(専攻)名称	教授			入学 定員	学科名称の変 化
					専任	兼任	講師		
ソウル	ソウル大学	1992	工業	出版科	2	-	7	40	印刷出版科
仁川 京畿 道	京仁女子大学	1993	コンピューター 情報デザイン 学科	ニューメディアデザイ ン専攻	2				電子編集 デザイン科
	金浦大学	1996	工業	電子出版科	4	3	14	120	デジタル出版科
	ドンウォン大学	1997	工業	出版メディア科	5	3	1	160	文芸編集科
	シング大学	1989	映像メディア 系列	出版メディア専攻	6	5	17	160	出版科
	ゲウォン造形 芸術大学	1995	芸術体育系	出版デザイン科	2	3	9	80	電子出版専攻 出版デザイン専 攻
大田 忠清 南道	ヘチョン大学	1989	工業	電子出版科	3	4	4	80	出版科
	ヘジョン大学	1982	視覚コミュニケ ーション系列	電子出版科	1	1	3	40	出版科
全羅 北道	白帝芸術大学	1992	工業	マルチメディア編集 科	2	1	7	80	編集デザイン科 出版編集科
釜山 慶尚 南道	ドンジュ大学	1993	マルチメディ アデザイン系 列	広告編集デザイン専 攻	3	2	8		編集デザイン科
	釜山情報大学	1989	産業デザイン 系列	情報編集デザイン専 攻	4	3	6		印刷出版科 情報出版科
	聖心外国語大 学	1995	産業情報デザ イン系列	出版編集デザイン専 攻	3	3	5		編集デザイン科
	ヨナム工業 大学	1999	産業情報デザ イン系列	電子出版デザイン専 攻	4	2	7		産業情報デザイ ン系列入学・視 覚情報デザイン 選択・電子出版 デザイン専攻
備考	大邱科学大学	1990	出版印刷科(90) - 電子出版科(97) - マルチメディア科(99)へと変更						

6. 大学院の出版教育

特殊大学院での出版学教育は1981年中央大学校新聞放送大学院で出版雑誌専攻が設置されることによって始まった。設立趣旨は新聞と放送，出版雑誌，PR 広告，視聴覚に関する理論と実際を深く研究，教授することによって韓国の言論文化発展に寄与できる指導的管理人材(新しい人材開発と現場専門職業人の再教育)を養成することにあつた。

大学院出版専攻現況および変化推移

大学院	開院年度	専攻設置 年度	所属学科	専攻名	院生現況(修士)		専攻名称変 化
					在学生	卒業生	
中央大学校 新聞放送大学院	1981	1981	新聞放送学科	出版雑誌	27	109	
東国大学校 言論情報大学院	1988	1988	出版雑誌学科	出版雑誌	20	38	
慶熙大学校 言論情報大学院	1989	1989	ジャーナリズム学科	出版雑誌	7	20	
西江大学校 言論大学院	1989	1992	言論学科	出版	28	15	
延世大学校 言論広報大学院	1992	1992		新聞出版	35	12	雑誌出版
建国大学校 言論広報大学院	1995	1997	新聞出版学科	出版雑誌	27	8	
漢陽大学校 言論情報大学院	1995	1995	-	新聞出版	37	20	
成均館大学校 言論情報大学院	1998	1998	コミュニケーション 学科	出版情報	22	4	

7. 民間主導教育機関

民間主導の非正規課程出版教育は出版学という学問からの接近ではなく出版現場で活用できる機能中心の教育である。

(1) 団体・機関の出版実務教育

1973年大韓出版文化協会が会員社の新入社員を対象に週1回1週間「編集研修講座」を開設したのが韓国における初めての出版実務教育である。この教育は1980年まで続いたが、81年には3カ月課程に拡大，改編され「編集人大学」として運営された。そして86年からは「出版人大学」に名称が変更され「営業責任者課程」を新しく新設し，88年まで約860名がこの課程

を修了した。

韓国雑誌協会は 1984 年から会員社の勤務者を対象に取材，編集実務教育を実施。85 年から一般人対象の教育が許容され「雑誌大学」という名称に変え，2 カ月コースで教育を行った。

その他，図書流通改善協議会の営業人講座（91 年開設），韓国言論研究院出版課程（84 年），産業デザイン包装開発院編集デザイン，DTP 教育（90 年），韓国人事管理協議の社報編集技法（81 年），著作権審議調整委員会の著作権実務専門家講座（88 年）などで出版実務教育が実施された。

（2）言論社²⁾付設文化センターの出版編集実務教育

生涯教育を掲げた言論機関の付設文化センターでも出版編集実務教育が実施された。東亜日報の東亜文化センター，中央日報の中央文化センター，平和放送の文化センターなど，新聞社，放送局の文化センターでの一講座として主に 80 年代に行われた出版編集実務教育である。

（3）私設教育機関の出版実務教育

編集代行社であった「デトン企画」が 1976 年から出版実務者養成教育を実施したが，本格的に始まったのは 1984 年実施された出版総合学院「出版文化アカデミ」だった。「出版文化アカデミ」は何年か経たないうちに中断された。80 年代後半の出版活性化措置以後，多くの出版社が設立され多様な雑誌や定期刊行物が溢れ出した。そのなかで専門人材の必要性が高まり，大学卒業者までも就業を目的に私設学院で教育を受ける状態となり，部分的ではあるがこのような私設学院が人材供給の中心的な役割を果たした面もある。またこのような私設学院は 1980 年代後半から 1990 年代初め頃までの韓国出版実務教育の一特長ともいえる。

参考文献

1. 学会誌掲載論文および学会会員執筆文献

1) 1960 年代

安春根「出版学原論」

安春根「出版学のために」

安春根『出版概論』

閔丙徳「大学に出版学科新設を」

閔丙徳「出版学序説」

朴一俊訳，D. C. スミス「出版業と職業訓練」

2) 1970 年代

韓泰錫「大学の出版学科設置問題」

韓泰錫「ハンゲル専用教育と出版」

2) 言論社とは新聞社，放送局など言論・報道を担当する企業を指す。(訳者注)

安春根「大学出版教育論」

李重漢「出版編集養成の緊要」

安春根ほか『出版実務便覧』

李種国「韓国出版学関係文献」

3) 1980年代

安春根『韓国出版文化論』

安春根「出版専門人力開発」

安春根「韓国出版学会 20年史」

安春根「韓国出版文化の言語，学問，教育」

閔丙徳「大学出版学科とカリキュラムに関する研究」

閔丙徳「出版学科カリキュラム分析」

閔丙徳『出版学概論』

閔丙徳「米州の印刷，出版教育を求めて」

閔丙徳「著作権管理仲介人の養成と既存編集人再教育方案」

閔丙徳「出版学科教育課程に関する考察」

閔丙徳「韓国での出版教育」

呉鎮煥「出版教育の必要性」

呉鎮煥「出版学科設立の条件と課題」

金羲洛「現行出版教育の問題点」

金羲洛「韓国出版学教育に関する研究」

李康洙「図書出版の専門性に関する考察」

呉慶鎬「出版産業協同の当面課題」

黄秉国「出版学科カリキュラムとしての構成論にともなう語学講座の拡充」

金ソンゼ『出版の理論と実際』

柳ウンヨン「国内外大学および機関の出版教育現況」

4) 1990年代

閔丙徳「国語科教育における編集教育に関する考察」

閔丙徳「出版業務課程の分析と職業教育に関する研究」

閔丙徳「国語科教育における読書教育に関する研究」

閔丙徳「出版教育政策の方向」

金羲洛「韓国出版学教育現況と教育課程の開発」

金羲洛『韓国出版学論考』

金羲洛「韓国出版文献目録」

金羲洛・金斗植「韓国出版の教育現況および教育課程の開発研究」

金斗植「韓国出版実務教育現況と教育課程の開発 社会教育機関を中心に」

金羲洛「大学電子出版教科課程に関する研究」

金羲洛「情報化時代の出版専門人力養成方案」
南ソク純「専門大学教育課程の改善研究」
李ムンハク「新情報技術の発展と出版学教育実態に関する研究」
李ヨンジュン「コンピューター・テクノロジーの導入による印刷媒体の構造的変化に関する研究」
全泳杓「出版界の産学協同と改善方案」
汎友社企画室編『出版学原論』
李正春ほか『マルチメディア時代の電子出版』
夫吉萬ほか『現代出版論』
李ヨンジュン『デジタル革命と印刷媒体』

2. 学会研究発表会

第 35 回 (1985. 2. 23) 金羲洛「韓国出版学教育に関する考察」
第 47 回 (1988. 10. 29) 金羲洛「韓国出版教育の概況 国際動向と比較しながら」
第 50 回 (1990. 4. 28) 閔丙徳「大学出版学科設置の必要性」
第 55 回 (1996. 12. 13) 金斗植「大学電子出版と教科課程に関する研究」

3. 出版学術セミナー

第 5 回出版学術セミナー (本の年記念学術セミナー - 1993. 5. 1)

- 第 1 部 主題発表 (共同主題 21 世紀に向かっての出版専門人育成策)
主題 1 「情報化社会における出版専門人育成策」(閔丙徳)
主題 2 「出版専門人育成現況と問題点」(金羲洛)
主題 3 「出版教育の課題と発展方案」(呉慶鎬)
- 第 2 部 共同討論：出版専門人育成策
第 3 部 申立書き採択：4 年制正規大学の出版学科設置促求申立書き

4. 出版教育関係資料集 世界の出版教育現況

『21 世紀出版発展のための専門人育成策』韓国出版学会編，本の年組織委員会，1993

- 第 1 部 韓国の出版教育関係主要論著
1. 「出版学，出版教育関係主要論著」(李種国)
2. 「韓国の出版教育現況」(閔丙徳・金羲洛)
- 第 2 部 「外国の出版教育現況」(閔丙徳・金羲洛)
付録 「韓国出版学会 - 4 年制正規大学出版学科設置申立書き目録」(南ソク純)

5. 韓中出版学術会議 (1997. 2. 22)

中国の出版研究現況と課題

(筆者：金浦大学教授 / 訳：文ヨン珠 (Moon Youn Ju))